

今月の特集関連本



ユマニチュード入門

本田美和子、イヴ・ジネスト、ロゼット・マレスコッティ＝著
本体 2,000 円＋税／148 頁／医学書院／2014

今月の特集の企画者・本田美和子先生らによる元祖ユマニチュード本。認知症ケアをはじめとするコミュニケーションの技法として注目を集める、ユマニチュードのエッセンスが凝縮された大ベストセラー。

心を閉ざした高齢者と看護者の心が通う様子を指して「魔法」のようだと称されるユマニチュードは、伝達可能な技術。「見る」「話す」「触れる」「立つ」というケアの基本をただ徹底させるだけ。「この本には常識しか書かれていません。しかし、常識を徹底させると革命になります」を、実感してほしい！



「ユマニチュード」という革命

なぜ、このケアで認知症高齢者と心が通うのか

イヴ・ジネスト、ロゼット・マレスコッティ＝著
本田美和子＝監修
本体 1,400 円＋税／256 頁／誠文堂新光社／2016

ユマニチュード開発者の2人が、その方法論をより現場に即したかたちで丁寧に紐解いていく実践書。寝たままの姿勢で行う清拭は「寝たきり」を助長してはいないだろうか？ 入浴拒否は、本当に本人に問題があるのだろうか？ これまでよかれと思って行われていたケアに潜む問題を検証した。実践した介護者・家族の負担も軽減したというエピソードや体験談も交え、誰もが実践できるユマニチュードの本質をつまびらかにしていく。



認知症の方の想いを探る

認知症症状を関係性から読み解く

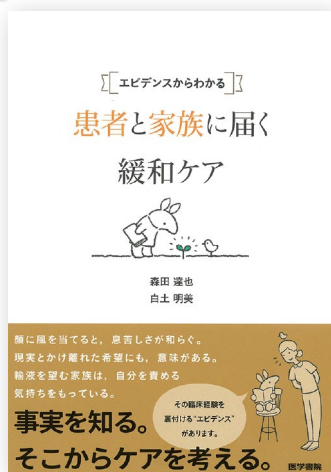
伊東美緒＝著
本体 1,714 円＋税／144 頁／介護労働安定センター／2013

今月の特集で、看護師の経験から認知機能が低下した患者さんとのコミュニケーションについてご執筆くださった、伊東美緒さん(p.628)はユマニチュード・インストラクターでもあります。相手の発する「不同意メッセージ」に気づくことなしに、コミュニケーションは始まりません。

東京都健康長寿医療センターでの実践から生まれた、患者の「想い」の汲み取り方は、認知症の人の「不同意メッセージ」への気づきを促すコミュニケーション論。認知症の方の発した言葉、行動、日常の変化への気づきから生まれるケアの方向性は温かい。外来、病棟での日常診療にきっと役立つ。



#今月の特集関連本



エビデンスからわかる

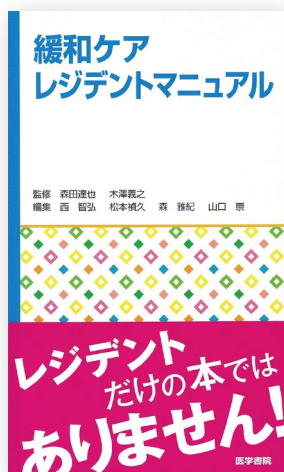
患者と家族に届く緩和ケア

森田達也、白土明美＝著

本体 2,300 円＋税／200 頁／医学書院／2016

今月の特集『がん治療・緩和ケア』を必要とする患者とのコミュニケーション (p.604)』『人生の最終段階』の支援のためのコミュニケーション (p.609)』と関連して、森田達也先生らによる関連本を 3 冊ご紹介します (p.614 にもう 1 冊あり)。

オピオイドを拒否する患者さんには、その理由を尋ねてみる。終末期の患者さんの、つじつまの合わない言葉に付き合う。現実とかけ離れた希望も、否定せず大切に。そんな 1 つひとつのケアが、患者さんと家族の大きな助けになる。日常のケアを裏づけるエビデンスから「今、できる緩和ケア」を考える本。コミュニケーションあつてのエビデンスなのだと納得！



緩和ケアレジデントマニュアル

森田達也、木澤義之＝監修

西 智弘、松本禎久、森 雅紀、山口 崇＝編

本体 3,600 円＋税／456 頁／医学書院／2016

緩和ケアの新スタンダードマニュアルが、ついに完成。第一線で活躍する気鋭の執筆陣が、基本から最新知見・ノウハウまで緩和のエッセンスを解説。各項目ではエビデンスを重視し、及ぶかぎり非がん疾患にも応用できるよう心がけた。通読できるコンパクトサイズながら網羅的であり、入門書としても最適。若手のみならず、指導者にとっても有用な好著。日常診療では白衣のポケットに忍ばせていただきたい 1 冊。



死亡直前と看取りのエビデンス

森田達也、白土明美＝著

本体 3,000 円＋税／204 頁／医学書院／2015

患者が亡くなる直前の医学的問題や看取りに関する解説をした本書は、①死亡までの過程と病態、②死亡直前に生じる苦痛の緩和、③望ましい看取り方のそれぞれについて、医療職が知っておくべき最新のエビデンスをまとめている。著者の経験に基づくナラティブな解説も豊富に記載されており、医師や看護師のみならず、人の臨終に関わる多くの読者の助けとなる書である。